



明石のコミュニティ・スクール

未来にむけて 学びをかえる

未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

KomiKomiSukuSuku

明石市教育委員会事務局学校教育課 mail: gakkyo@city.akashi.lg.jp

For The Future

No. 160

2022

5.31

神戸市「学校づくりの指針」策定 “コミュニティ・スクール始動！”



「学校づくりの指針」の策定

これからの学校教育にあたっては、保護者や地域の皆さんとの連携・協力を深め、連帯感をもって子供たちの学びや成長を支える学校づくりを進めていく必要があります。そのため、令和3年12月より、保護者や地域の皆さん、現場の先生方、学識経験者の参画による「開かれた学校づくりに関する有識者会議」を開催し、どのような学校づくりを目指すべきか、検討を行ってきました。

この際、有識者の議論を踏まえ、学校づくりの指針を策定しました。
今後、この指針をもとに、コミュニティ・スクールをはじめとする取り組みを推進し、保護者や地域の皆さんと一体となって、神戸の子供たちを育んでいきます。

<コミュニティ・スクールとは>

保護者や地域の皆さんが委員となる「学校運営協議会」を設置し、そのご意見を学校運営に活かすとともに、学校と保護者・地域の皆さんが連携・協力しながら、一体となって子供たちを育む活動に取り組む学校のことです。

神戸が目指すこれからの学校の姿

「人がつながり ともに創る みんなの学校」

コンセプト

子供たちの生きる力を育むのは、人と人とのつながり。
学校、保護者、地域の皆さんのつながりの輪の中で、地域とともに創る学校を実現し、未来の担い手となる神戸っ子を育みます。

取組の3本柱

- 1 育てたい子供の姿を共有します
育てたい子供の姿を保護者、地域の皆さんと共有し、連帯感を持って子供たちの学びや成長を支えます。
- 2 親しみやすい学校をつくります
地域がつながる場として、みんなが訪れたいくなる、親しみやすい学校環境をつくります。
- 3 子供を育む活動をともに進めます
保護者、地域の皆さんとの関わり合いと連携を深め、育てたい子供の姿の実現に向けて、ともに活動を進めます。



神戸市の学校にお子さんを通して保護者の方より、情報をいただきました。

明石のすぐメールのようなもので、学校の情報に加えて、市からの情報も入る仕組みになっているようで、こうした「教育委員会だより」も委員会のホームページだけでなく、市の取組を情報発信されているんですね。ホームページはホームページを見に行く必要がありますが、情報が手元に届くようになった今、情報発信も形を変えていく必要があるんだと感じました。市内でもまちづくり協議会さんが LINE の公式アカウントで情報を発信されています。丹波市の教育委員会も LINE の公式アカウントで情報を発信されています。そんなことがまず、このお便りを見ながら頭に浮かんできましたが、中身に目を通して、神戸市もコミュニティ・スクールを学校づくりの柱にすえ、これからの時代

に向けての学校づくりに取組を始める意気込みが伝わってきました。

神戸が目指すこれからの学校の姿として「人がつながり ともに創る みんなの学校」を掲げ、「子供たちの生きる力を育むのは、人と人とのつながり。学校、保護者、地域の皆さんのつながりの輪の中で、地域とともに創る学校を実現し、未来の担い手となる神戸っ子を育みます。」とコンセプトを打ち出しています。

こうした動きをみていると、兵庫県内でもコミュニティ・スクールの動きが加速化されてくる予感がします。今回の「地域とともにある学校づくり推進フォーラム 2022 兵庫」がそうした動きの後押しをするような気がします。



明石からも朝霧校区がパネリストとして登壇し、朝霧校区の取組を発信されます。

WEBでも参加可能ですので、コミュニティ・スクールに触れる機会にしていだけたらと思います。また、「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」に参加するにあたり、予習として「明石のコミュニティ・スクール 2022」に目を通していただけたら、当日の話がイメージしやすくなるかなと思っています。

参加申し込み方法
申し込みは「会場参加」「WEB視聴」の2種類があります。
どちらも、下記のQRコードの申し込みフォームよりお申し込み下さい。



<https://forms.gle/SREFWjmcLLn9f7jZA>
申込期間：5月20日(金)～6月7日(火)
問い合わせ NPO法人 教員支援ネットワーク T-KNIT(ティニット)
Email: info@t-knit.or.jp

※当日の接続不具合についてのお問い合わせは受付出来かねますので、必ず事前に接続環境をご確認下さい。

「明石のコミュニティ・スクール 2022」



2022 度版本編



2022 度概要版

ちょっと小耳にしたこと 面白情報

先日ある中学校コミュニティ・センターのエリアマネージャーさんと話をすることがあり、素敵なプランを聞かせていただきました。どんなプランかというと、夏休みに地域の親子教室を考えていて、中学校の科学クラブと連携しての科学教室を計画中という話でした。そんな話がはじまると、高齢者向けの教室も面白いかも、教室のネタを高校と協働して考えるのも面白いかも……。それなら、英語クラブがクリスマスに「英語 de クリスマス」というのも「面白いかも」。

「面白いかも」ではなく、プランを考えているエリアマネージャーさんが楽しそうに話をされていたので、実現する可能性が高いのではと思っています。そして、こうしたことが、学びの場を広げ、コミュニティ・センターが生涯学習の場として広い世代により開かれていくことにつながるんだろうなと感じました。明石ではコミュニティづくりの歴史があるだけに、コミュニティ・スクールの動きはすでに多くの地域で始まっているのだと思います。こうした話題が学校運営協議会で熟議され、子供たちの学びがつながり、広がっていけばいいなと思っています。

また、ある小学校の校長先生と立ち話をする中で、家庭科での地域ボランティアの話聞くことができました。家庭科では針を使ったり、ミシンを使ったり、また包丁をつかったり、火をつかったりと子供たちの作業を見守る目がたくさんあればいいなと常々感じておられたようで、新年度が始まり、5年生の家庭科がスタートするにあたり、毎朝校門の立ち番でよく話をされるスクールガードの方に、何気なくそんな話をすると、「そんなことやったら得意な人はなんぼでもおるで。ちょっと聞いてみたるわ。」とすぐに10人程のボランティアが集まったそうです。こうした土壌が各校区でも耕されているのではと思います。集まっていたボランティアさんが単なるお手伝いのボランティアさんではなく、学校に来ることを楽しみに、子供たちを通して生きがいを見つけていただけるようになればいいなと思っています。コミュニティ・スクールはそうした仕組づくりで、ウィンウィンの関係をつくっていくことなんだろうなと思っています。

(文責：北本)